

市民の皆さまへ 市長からのメッセージ

～年度始めの職員あいさつから～



※4月1日に行われた市職員への市長あいさつは、異例でしたが市民に向けた市長の決意・メッセージでした。そこで広報せんばく紙面で、その内容をお伝えします。

はじめに東日本大震災で亡

くなられた方々、また今もなお行方不明となっている皆さん、捜索を見守りながら避難所で生活が続ける方々に、お悔やみとお見舞いを申し上げます。仙北市民、そして職員の皆さんは無事に新年度を迎え、このように今を生きていることができる現実に感謝を忘れてはいけません。私自身は着任後、市民の皆さん、職員の皆さんと約1年半仕事をさせてもらいましたが、その間、合併前等に発生した事案が立て続けに問題化し、勢いよく前に進めないと言ったのが正直な心境です。積み上がった問題・課題を一つでも多く、また早く、解決できる1年にしたいと思っています。

東日本大震災に対し、仙北市はあらゆる手法で復興支援に参画していく覚悟です。市民にもご協力をいただきたいと思っています。震災対策は大きく分けると震災地の復興支援と、ふるさと仙北市での産業・経済活動立て直しです。この両

面にしっかり向き合って行財政運営に取り組みます。

大震災は、日本社会のカタチを変える大きな事件で、復興は福島原発の事故対策とあわせ、先行きが全く不透明です。

先の議会で可決いただいた当初予算、これは震災が発生する前に編成を行ったものですが、震災後に激変した社会情勢と、震災を起点に進めなければいけない仙北市のまちづくりに、はたして対応できるかどうか…、私の認識では厳しいと受け止めています。一刻も早い内外政策の見直しが必要と感じています。

この際、マニフェストなど市民の皆さんと交わした市政公約は、精査の上でモノによっては「暫時凍結あるいは先送り」とし、今この実情に、即時に手を打てる政策財源を確保すべきと考えます。特に強く危機感を抱いている分野は、商工・観光・農業の3部門です。危機状況が最高レベルにあるという私の認識を、ぜひ市民や職員の皆さんと共有したいし、その共有認識

を原動力に、これまでの仙北市の産業・経済の構造転換を図りたいと思います。皆さんには戦略的な視点で、政策や施策の提案をお願いします。今後、この方針で議会と協議する心構えです。

災害が発生する度に思うの

は、仙北市の情報発信能力の脆弱さです。少しずつ強化できていますが、基本的な部分に欠けているような気がします。平時の職員の皆さんの仕事ぶりを市民に伝えるためにも、また市民から思いを引き出すためにも、職員が先頭に立ち、情報の発信を行える仕組みづくりを急がなければいけません。市民サポートセンターの開設、防災無線等の全市整備、ホームページや広報のさらなる充

実、地域運営体との連携強化など…。何より、市民同志・職員同志・市民と職員との絆の結び合いを強める必要性を感じます。

職員の皆さんには、人事異動で職員自身の要望をなかなか実現できなかったことを、大変申し訳ないと感じています。しかしながら様々な理由があるのも事実で、どうかその点も参酌いただきたいと思います。また同じ職場で机を並べて仕事をして

いるにもかかわらず、現在も旧

町村の垣根を感じる職員が多いと聞きます。その見えない壁こそ、職員が真つ先に乗り越えて欲しいと思います。

昨年に続き、市役所機能と

を再編成しました。議会でも答弁していますが、この方針は組織拡大路線ではなく、職員数の減少に対応するための小さな行政体づくりに向けた第一歩です。この延長線上に一体型庁舎の有り様が見えてくるはずですよ。

新たな職場に着任された職員の皆さんは、おのおのの立場で市民とどのような関係を築けるのか、成果を上げることができているのか、皆さんの取り組みにかかっています。既成概念にとらわれることなく、常に市民の思いを受け止め、法を遵守し、工夫を凝らして職務にあたってください。

来年の今日を、清々しい気持ちで迎えることができるよう、自分は余事を排除し職務に専念します。市民の皆さん、職員の皆さんのご協力とご理解を心からお願いし、年度当初のあいさつとします。

平成23年4月1日